

厚生労働省三重労働局発表

令和5年11月30日

テレビ・インターネット 11月30日記者会見終了後解禁
新聞 11月30日夕刊解禁

【照会先】

三重労働局職業安定部職業安定課

課長 大平 博章

課長 補佐 村井 邦章

地方労働市場情報官 山本 佳弘

(電話) 059 (226) 2305 (内線 228)

報道関係者 各位

「雇用情報モニター報告集計結果(令和5年度第3・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、令和5年度第3・四半期(令和5年10月～12月)実績見込み及び次期(令和6年1月～3月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

調査結果 主な項目の概要

○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が21.0%で前期と比べ減少、「減少」が30.6%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は▲9.6となり前期と比べ32.2ポイント下降。次期見通しは4.9で上昇予想。

○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が25.0%で前期と比べ減少、「減少」が23.4%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は1.6となり前期と比べ9.3ポイント下降。次期見通しは7.8で上昇予想。

○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が17.5%で前期と比べ減少、「減少」が19.0%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は▲1.5となり前期と比べ20.5ポイント下降。次期見通しは6.4で上昇予想。

○ 設備投資の見込み

「ある」が34.4%で前期と比べ1.5ポイント減少、「ない」が43.8%で前期と比べ1.6ポイント増加。D I(「ある」-「ない」)は▲9.4で前期と比べ3.1ポイント下降。

○ 従業員の過不足判断

「過剰」は0.0ポイントで前期と比べ減少、「やや過剰」は5.5ポイントで前期と比べ増加、「不足」は6.3ポイントで前期と同じ、「やや不足」は21.1ポイントで前期と比べ減少。D I(「過剰」-「不足」)は▲21.9となり前期と比べ3.2ポイント上昇(不足判断がやや減少)。次期見通しは▲27.3で「不足」判断が増加の予想。

○ 雇用調整の状況

実施事業所数は22事業所(34.4%)で、前期の17事業所(26.6%)より増加。

○資料

別添 「令和5年度 雇用情報モニター報告集計」

○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
- ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
- ・調査時期 令和5年度第3・四半期（令和5年10月～12月）実績見込み及び次期（令和6年1月～3月）見通しについて
- ・モニター内訳 民間企業64社（建設業3、製造業46、運輸業2、小売業8、サービス業等5）事業主団体等8
- ・回答状況 民間企業64社、事業主団体等8団体

（注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

令和5年度 雇用情報モニター報告集計

令和5年度 第3・四半期
三重労働局職業安定部職業安定課

令和5年度第2・四半期（5年7月～9月 以下前期）においては、多くの指標のD Iがプラスとなりましたが、第3・四半期（5年10月～12月 以下今期）においては、多くの指標のD Iがマイナスとなりました。

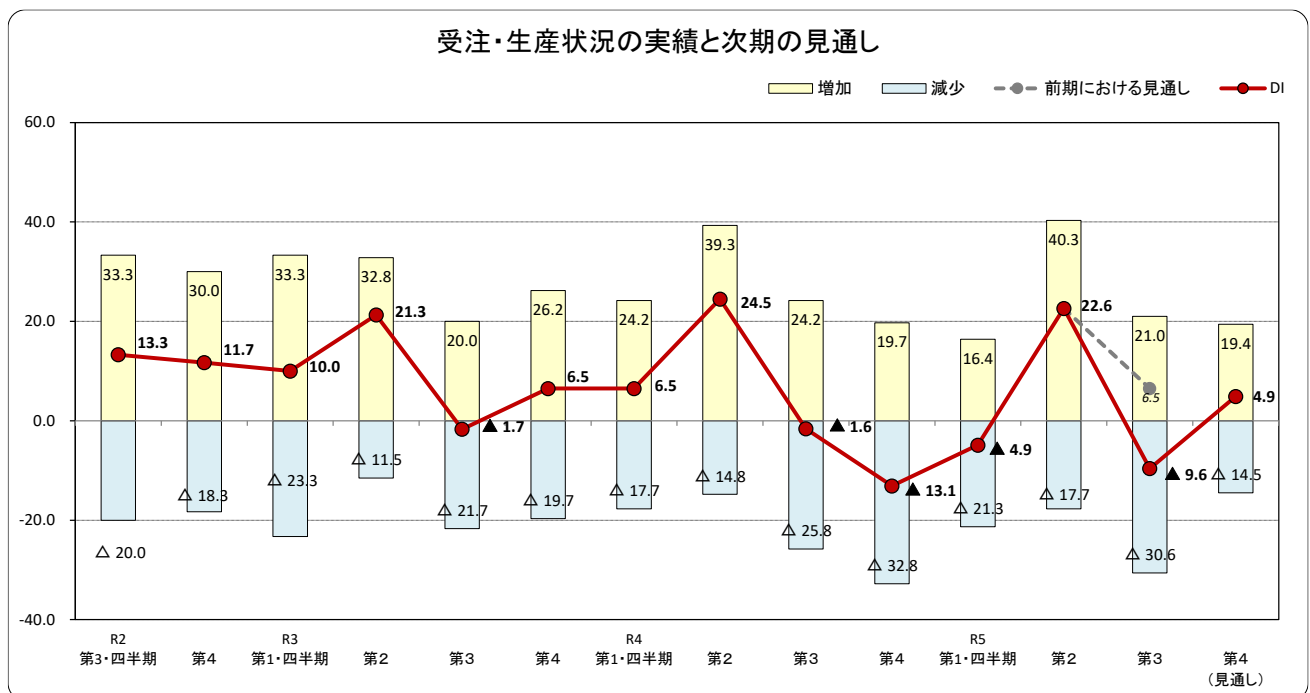
第4・四半期（6年1月～3月 以下次期）の予想においては、多くの指標で上昇の見通しとなっています。

1. 受注・生産動向について

【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が21.0%、「減少」が30.6%で、D I（「増加」－「減少」）は▲9.6で前期と比べ32.2ポイント下降し、2期ぶりにマイナスとなりました。

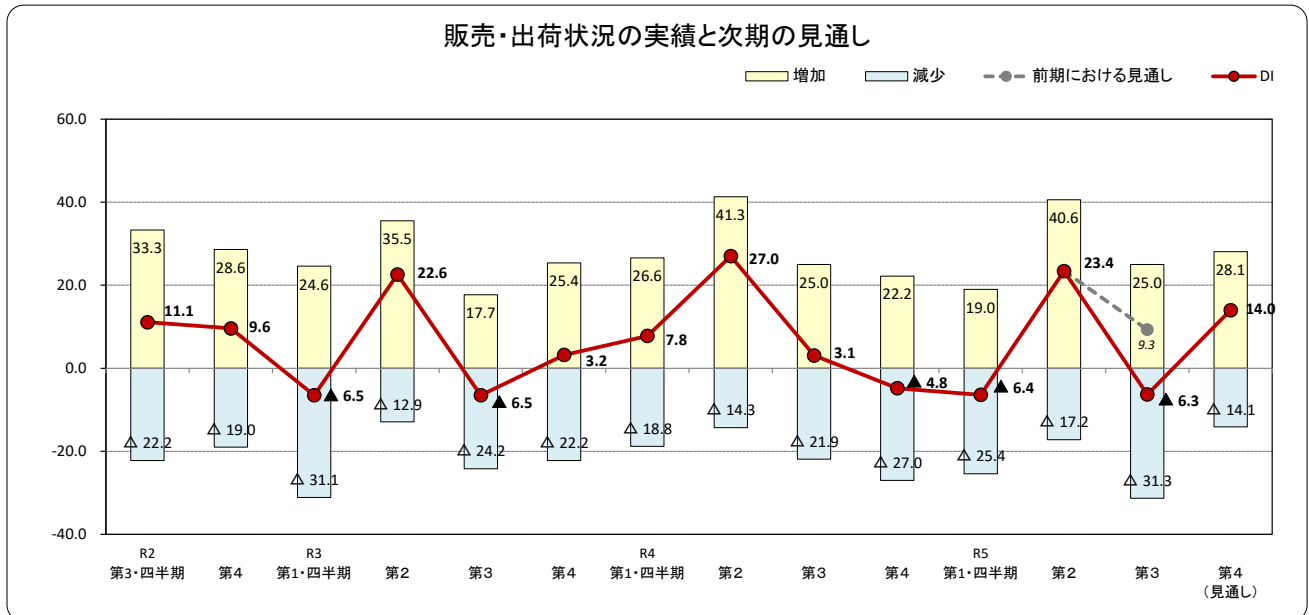
次期の見通しについては、D Iは4.9で、上昇する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が25.0%、「減少」が31.3%で、D I（「増加」－「減少」）は▲6.3で前期と比べ29.7ポイント下降し、2期ぶりにマイナスとなりました。

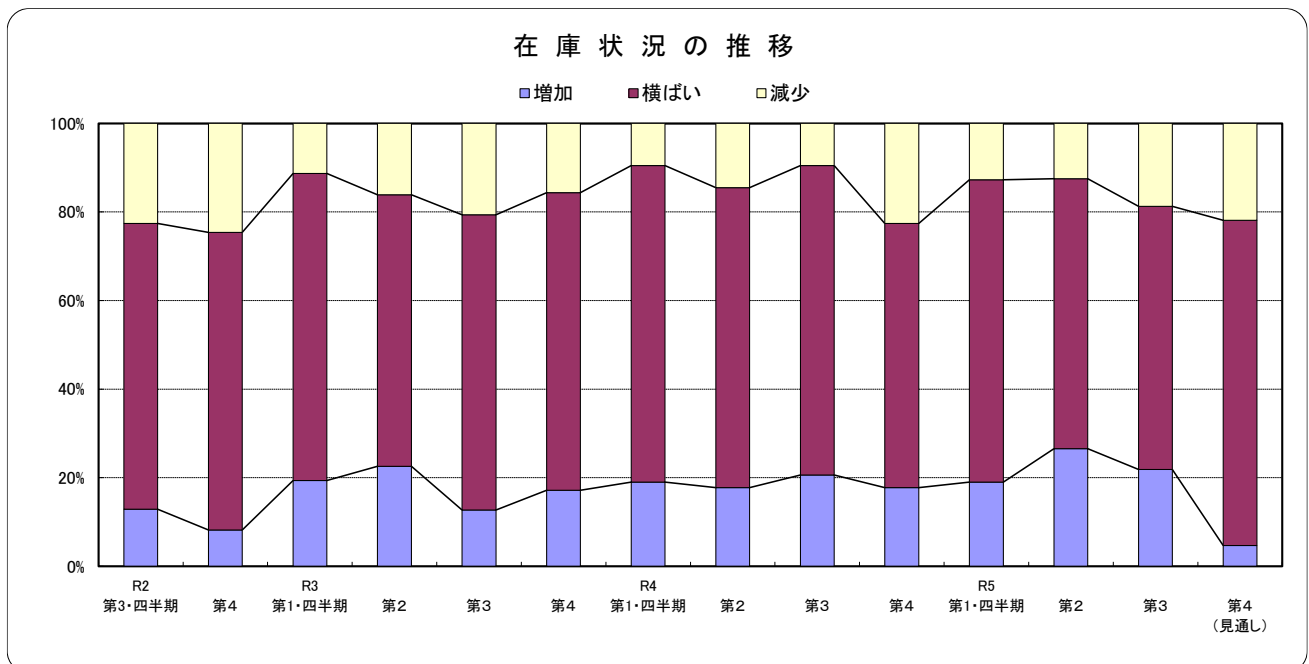
次期の見通しについては、D Iは14.0で、上昇する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が減少、「減少」が増加、55期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「増加」が減少、「減少」が増加する予想となっています。

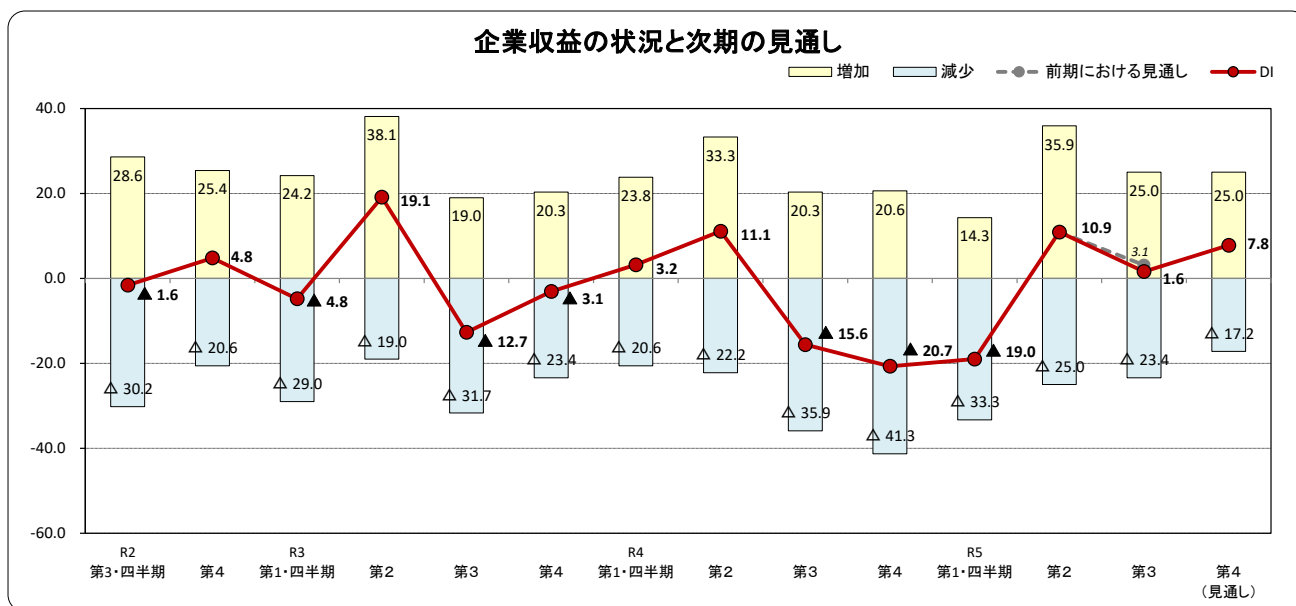


2. 企業活動の状況について

【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が25.0%、「減少」が23.4%で、D I（「増加」－「減少」）は1.6となり、前期と比べ9.3ポイント下降しましたが、2期連続でプラスとなりました。

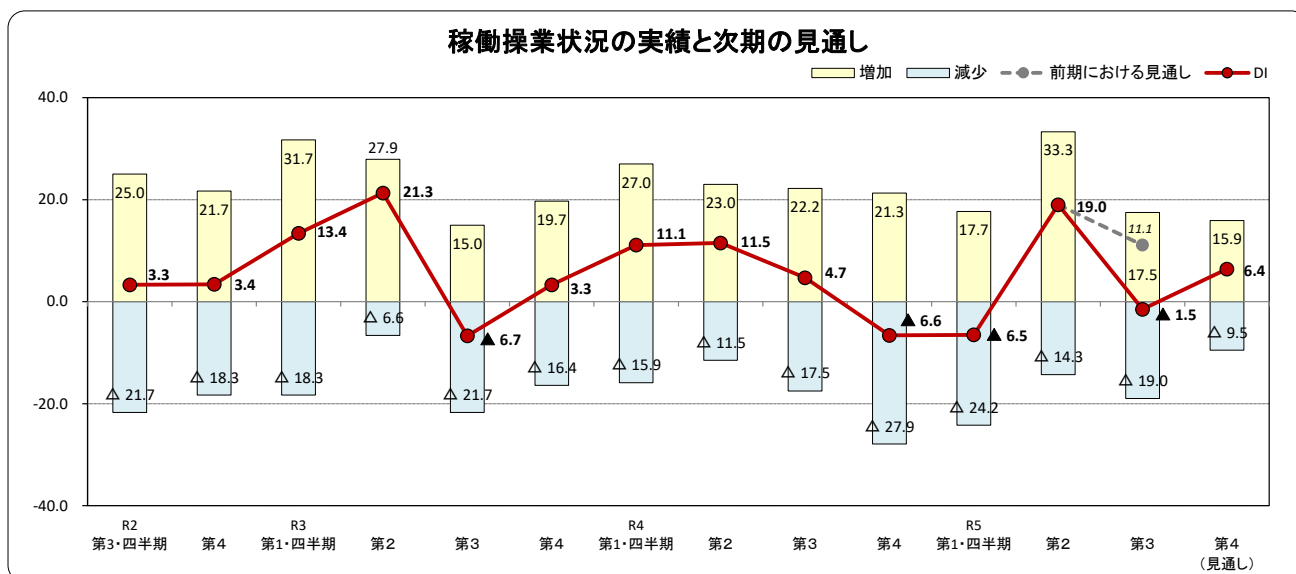
次期の見通しについては、D Iは7.8で、上昇する予想となっています。



【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

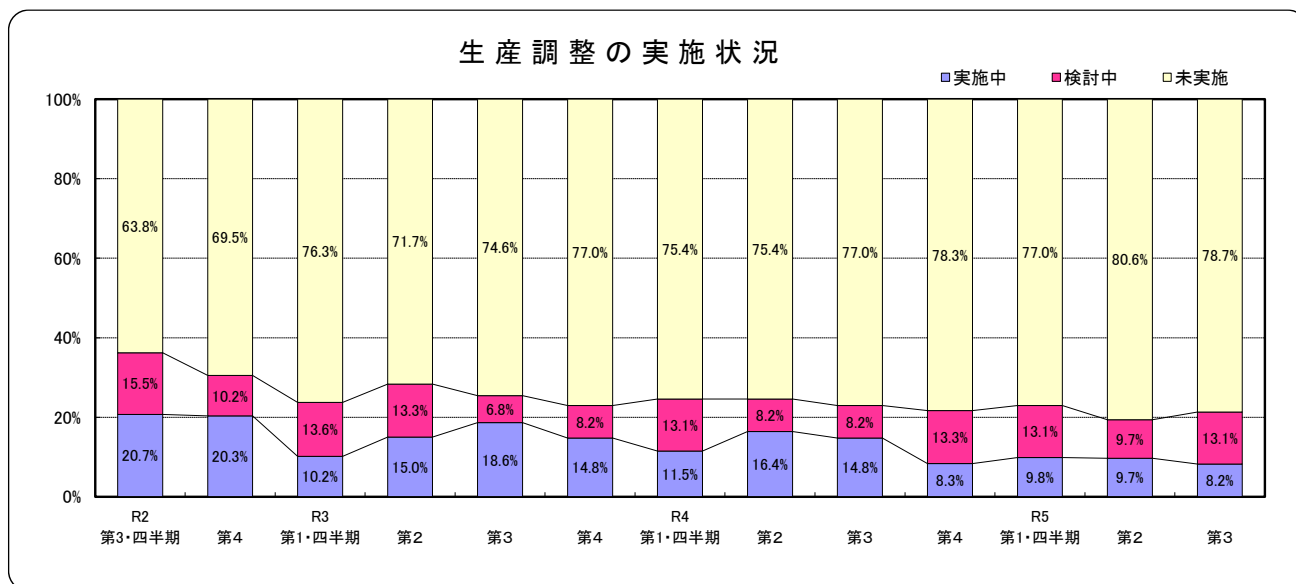
今期の稼働操業状況では、「増加」が17.5%、「減少」が19.0%で、D I（「増加」－「減少」）は▲1.5となり、前期と比べ20.5ポイント下降し、2期ぶりにマイナスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは6.4で、上昇する予想となっています。



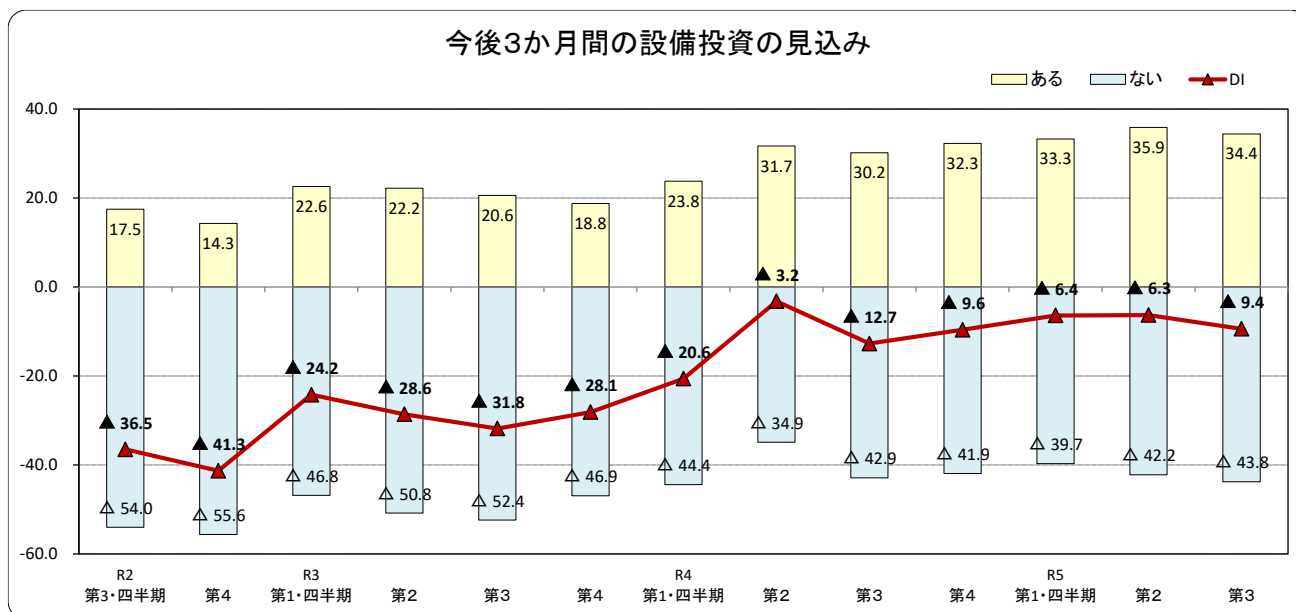
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は78.7%で前期と比べ1.9ポイント減少、「検討中」は13.1%で3.4ポイント上昇、「実施中」は8.2%で1.5ポイント減少となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は34.4%で前期と比べ1.5ポイント減少、「ない」とする事業所の割合は43.8%で前期と比べ1.6ポイント増加、D I（「ある」-「ない」）は▲9.4となり、前期と比べ3.1ポイント下降しました。

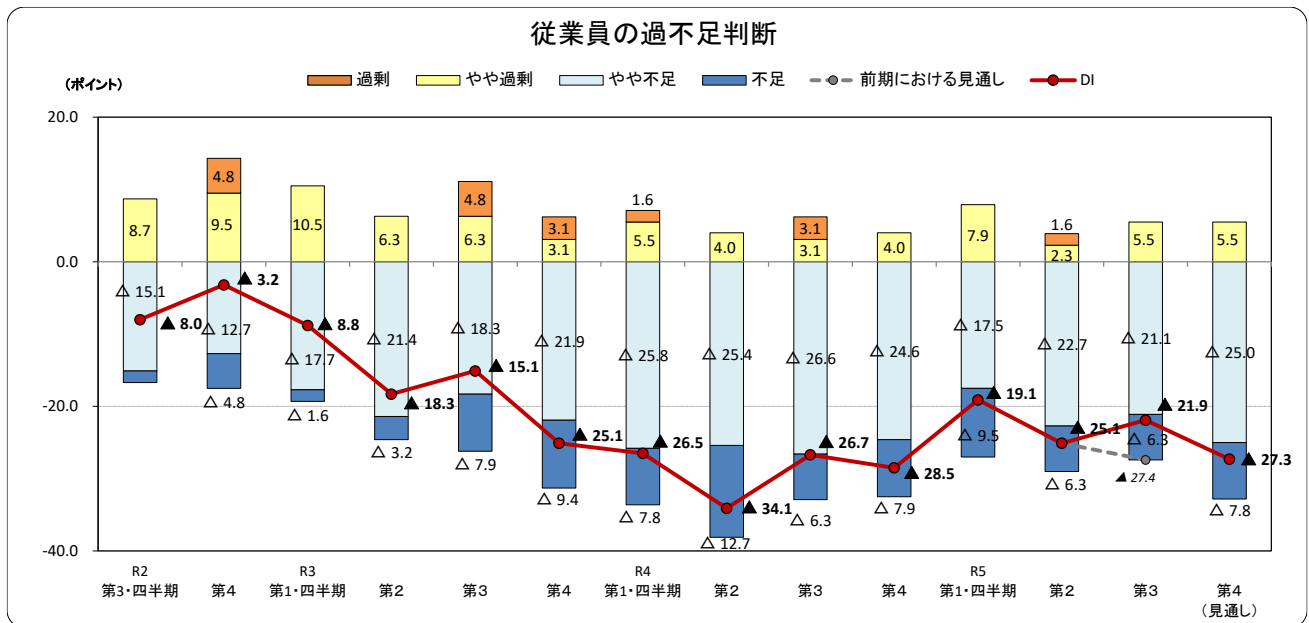


3. 雇用動向について

【従業員の過不足判断】

「過剰」とする事業所は 0.0 ポイントで前期と比べ 1.6 ポイント減少、「やや過剰」とする事業所は 5.5 ポイントで前期と比べ 3.2 ポイント増加、「不足」とする事業所は 6.3 ポイントで前期と同じ、「やや不足」とする事業所は 21.1 ポイントで前期と比べ 1.6 ポイント減少し、D I（「過剰」-「不足」）は▲ 21.9 となり、前期より 3.2 ポイント上昇（不足判断がやや減少）し、13期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

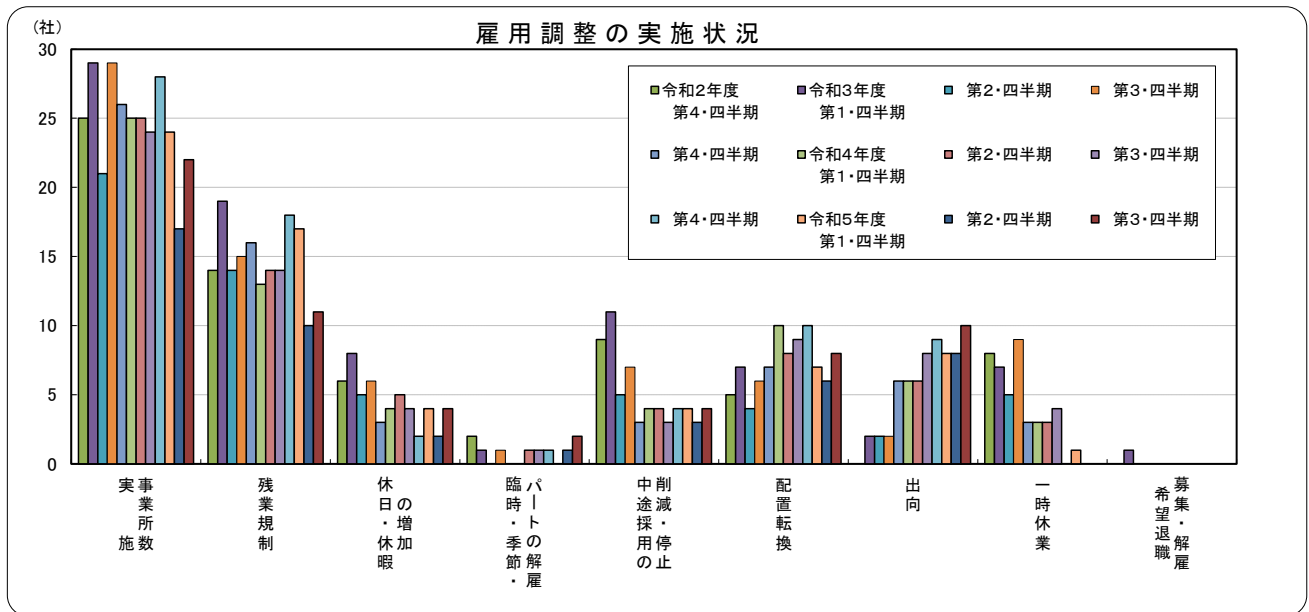
次期の見通しについては、D Iは▲27.3で、不足判断が増加する予想となっています。



【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 22 事業所 (34.4%) で、前期の 17 事業所 (26.6%) より 5 事業所の増加となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
令和2年度 第4・四半期	62	34	3	25	14	6	2	9	5	0	8	0
令和3年度 第1・四半期	62	30	3	29	19	8	1	11	7	2	7	1
第2・四半期	63	34	8	21	14	5	0	5	4	2	5	0
第3・四半期	63	32	2	29	15	6	1	7	6	2	9	0
第4・四半期	64	32	6	26	16	3	0	3	7	6	3	0
令和4年度 第1・四半期	64	36	3	25	13	4	0	4	10	6	3	0
第2・四半期	63	35	3	25	14	5	1	4	8	6	3	0
第3・四半期	64	34	6	24	14	4	1	3	9	8	4	0
第4・四半期	61	29	4	28	18	2	1	4	10	9	0	0
令和5年度 第1・四半期	63	32	7	24	17	4	0	4	7	8	1	0
第2・四半期	64	39	8	17	10	2	1	3	6	8	0	0
第3・四半期	64	34	8	22	11	4	2	4	8	10	0	0



<主なコメント>

- 海外からの原材料が、価格、品質に加えウクライナ情勢の影響で輸送ルートが確保できず、入手できるかどうか不安定で、長期の生産計画が立てにくい状況。（協同組合）
- 最低賃金の引き上げは、従業員の雇用形態にも影響を与えている。健康保険の加入については、対象者の8割が否定的で、年収の範囲内で調整する者が多い。（小売業）
- 最低賃金の引き上げにより、パート職員の時給が引き上げとなり、労働者の希望で雇用契約の見直しを行った職員が複数いる。（医療・福祉）
- 半導体不足の影響もほぼ終息。生産量増加傾向である。従業員については、不足感があり、採用強化を実施していく。（製造業）
- 今期は、コロナ前だと年間で一番団体客を受注できる時期だが、本年は団体客の動きが低調。宿泊業の特徴として、年間を通して繁閑の差が激しい。今年度に入りコロナからの脱却で、人手不足感が表れ出してきた。（宿泊業）
- 最低賃金の大幅な上昇が利益を圧迫している。（小売業）
- 売上高は下がっているが、一定の値上げも出来ていることから収益力は下がっていない。（製造業）
- 中国での急激な景気減速の影響を受け、生産は調整局面に入った。原材料価格の高騰、急激な為替変動等が継続し、先行きの業績に及ぼす影響も出ている。（製造業）
- マスク未着用のお客様が更に増加し、それに伴い客数も増加傾向。電気代の高騰に歯止めがかかり、利益の圧迫にストップがかかった。（小売業）
- 賃金上昇を価格転嫁できず、企業収益を圧迫。物価上昇率を加味した賃上げを行いたいのが、更なるコストダウンの要請もあり難しい。（製造業）
- 原材料価格の高騰（高止まり）に伴い、製造原価が増加しているが、全てを価格転嫁することが難しい。最終製品の値上げにより消費者の買い控え傾向も見られる。（製造業）
- 若手正社員の中途採用に取り組んでいるが、職種を問わず厳しい状況が続いている。（製造業）
- 運輸業、建設業の経営者より人手不足の悩みを聞く。（経済団体）